

Q. 子ども応援課の描く未来は



しばたけんいち

柴田賢一 議員

SHIBATA Kenichi

A. 子育てが浸透するまちに

子ども応援課は子育て支援を拡充するために設置された。今後の取り組みについて問う。

Q 子ども応援課の設置から、どんなことに取り組み、

どんな声が上がっているのか。

生活福祉部長

A 保育士を増員して相談体制を強化、子ども応援課前に「きこっとひろば」を設置、電子母子手帳などの子育てアプリや青山保育園の乳児クラス

の開設などを実施してきた。これらの取り組みに保護者からは好評をいただいている。



安心して手続きができる「きこっとひろば」

Q 遊び場・交流の場の確保について、どのように考えているのか。

生活福祉部長

A 子ども議会での質問や町

民の声に、ボール遊びができる場所の開設を求める声が多いことは承知している。スポーツ施設、公園、児童遊園、学校などニーズに沿った利用が可能かどうか検討していく。



校庭でボール遊びができれば…

Q 子ども応援課の描く未来は、どのようなものか。

生活福祉部長

A 豊山で生まれた子どもたちが、このまちで過ごし子どもを育てるサイクルが定着するまち「とよやまで子育て」が浸透する未来を目指し、町制50周年を機に子ども応援課が中心となって、その実現に向けて取り組んでいきたい。

Q. 道路施設の適切な更新とは

A. 優先度を定め効率的に

Q 舗装状態の点検は、どのように行っているのか。

A また、点検に基づいた更新の優先順位付けがあるのか。

産業建設部長

A 現在、適正な道路管理と維持管理コストの縮減を図るため、道路管理計画の策定を行っており、路面性状調査などで舗装の劣化状況を把握し更新の優先度を定めていく。



目立つ継ぎはぎ舗装

Q 橋梁の点検は、どのような頻度、体制で行うのか。また、その結果の記録は、

A 県の外郭団体が行う技術支援業務を活用し5年に1回、他市町村一括で点検している。結果は町に提出され維持管理や改修計画に活かしている。

産業建設部長

A 側溝の点検方法は、また、更新の基準は、

Q 側溝の点検方法は、また、更新の基準は、

産業建設部長

A 職員が現場に出かける際や住民からの通報に基づき現場確認を行う。道路管理計画に基づく舗装の更新時期に合わせ効率的な更新に努める。



ひび割れている側溝